

## モデルプログラム J-2 在籍学級での学習支援－授業参観－

ねらい	外国人児童生徒等が在籍する学級を見学し、在籍学級では実際にどのような支援が行われているかを観察し、その効果を検討することによって、在籍学級での支援の具体的なイメージをもつ。
対象	<input type="checkbox"/> 教師を目指す学生（教員養成課程他） <input type="checkbox"/> 日本語教育を学ぶ学生 <input type="checkbox"/> 現職日本語指導担当教員 <input checked="" type="checkbox"/> 現職一般教員 <input type="checkbox"/> 管理職 <input type="checkbox"/> 指導主事 <input type="checkbox"/> 日本語支援員／母語支援員
日本語指導・外国人児童生徒教育の経験	<input checked="" type="checkbox"/> 経験なし <input type="checkbox"/> 1年目 <input type="checkbox"/> 2-4年 <input type="checkbox"/> 5年-9年 <input type="checkbox"/> 10年以上
高めたい資質・能力	<input checked="" type="checkbox"/> 捉える力（子どもの実態把握） <input type="checkbox"/> 捉える力（社会的背景の理解） <input checked="" type="checkbox"/> 育む力（日本語・教科の力の育成） <input type="checkbox"/> 育む力（異文化間能力の涵養） <input checked="" type="checkbox"/> つなぐ力（学校作り） <input type="checkbox"/> つなぐ力（地域作り） <input type="checkbox"/> 変える／変わる力（多文化共生社会の実現） <input type="checkbox"/> 変える／変わる力（教師としての成長）
主な内容	J 在籍学級での学習支援
活動形態	<input type="checkbox"/> 講義型 <input type="checkbox"/> 活動型 <input checked="" type="checkbox"/> フィールド型 <input type="checkbox"/> 実習
時間	90分
流れ（・項目）	活動（◇活動の工夫）
1. 授業参観の視点をもつ（10分） ・学習参加のための支援(J) ・学習環境づくり(J) ・周囲の児童生徒との相互学習(J)	1. 外国人児童生徒が在籍する学級へ訪問する目的を確認し、授業参観の視点を共有する。 ・教員は、内容理解や学習参加のために、どのような支援（スキヤフールディング）を行っているか。 ・外国人児童生徒等は、授業のどのような学習場面で何をするとき困っているのか。 ・グループ活動などで、周囲の子どもたちとどのように関わりながら参加しているか。
2. 授業を参観し、外国人児童生徒等への支援に気づく。（45分） （・項目は活動欄に記載）	2. 上記の視点をもって、外国人児童生徒が在籍する一般学級の授業を参観する。 ◇講師は、次のような支援が見られた場面をメモし、授業後のセッションで紹介できるようにしておく。 ・支援（スキヤフールディング）の効果 理解支援、表現支援、記憶支援、自律支援、情意支援等 ・具体的な支援の方法 フォーカス・オン・フォーム、リキャスト等
3. 在籍学級の授業での支援とその効果について検討する。（25分） ・学習参加のための支援(J)	3. 観察した授業について話し合い、外国人児童生徒の学習参加上の困難とそれに対する教師の支援とその効果について検討する。 1) 1で挙げた3つの視点について授業中に気づいたことを付箋に書いて発表し合う。 2) 支援の効果を「理解・表現・記憶・自律・情意」等から考える。 3) それ以外に見られた支援について講師の話聞く。
4. 自身ができる支援の工夫を考える。（10分） ・学習参加のための支援(J)	4. 自身が在籍学級の担任になった場合、授業でどのように支援を工夫したいかをペアで話し合い、支援方法についてイメージをもつ。
備考	・講義型の授業・研修の後に実施する場合は、1を割愛する。 ・受講者の人数が多く参観が難しい場合は、授業のビデオを見て活動型（事例分析）の授業として実施する。

